

科目名	文化人類学	科目分類	□専門科目 ■総合科目群		
			全学科	□必修	■選択
			学科	□必修	□選択
英文表記	Cultural Anthropology	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	かまだ ゆきお	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	鎌田 幸男	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	文化人類学とはどのような学問かを考える。またその研究方法はどのように行われるのかを知る。				
到達目標	フィールドワークとはどのようなものか、具体的に実施の仕方、課題と意義を考える。				
授業概要	文化人類学は民族学とも考えられる。世界の諸民族がもつ文化、社会、それに経済、宗教などを比較研究する広範囲にわたる学問領域である。本講義では半期科目であるので、主に日本の伝統的な文化を取り上げる。またこの学問研究に欠かせないものにフィールドワークがある。具体的には男鹿半島に伝わる民俗行事のナマハゲや秋田の獅子舞行事を事例にして考える。				
授業計画					
第1回	講義の概要について説明する。				
第2回	文化人類学の世界—どのような学問か。未開民族の文化を取り上げる。				
第3回	日本の文化人類学の歩み—研究の歴史を考える。				
第4回	文化人類学と民族学の関連について考える。また民俗学との相違についても触れる。				
第5回	男鹿半島に伝わるナマハゲ文化について—その概要と研究方法について (1)。				
第6回	フィールドワークの仕方について (2)。				
第7回	秋田の獅子舞行事から—その概要と調査方法と課題について。				
第8回	世界文化遺産とユネスコの無形文化遺産についての考え方。				
第9回	マリノフスキーの調査から—小さな離島の経済活動について (1)・				
第10回	フィールドワークが注目される理由 (小テストの予定、20分)				
第11回	文化の伝播について—進化論と伝播論 (1)				
第12回	社会伝播論 (2)				
第13回	超自然の世界—アニミズムとシャーマニズムについて。				
第14回	日本のシャーマニズムについて。				
第15回	文化人類学の新しい研究領域について				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	「文化人類学入門書」(中公新書)を読んでほしい。文化人類学の概要と学問領域がわかる。				
履修条件 受講のルール	配布資料から世界の諸民族の暮らしぶりに関心を持ち調べてほしい(1, 5時間)。必要に応じて資料を配布するが、無断欠席の学生には原則配布しない。				
テキスト	半期の科目なので使用しない。				
参考文献・資料	「文化人類学入門書」(中公新書)、「文化人類学を学ぶ人のために」(世界思想社)				
成績評価の方法	① 定期試験(60%)、②小テスト(20%)、③レポート(20%)、①②③の総合評価とする。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。				
オフィスアワー	金曜日(11:~12:30) これ以外の場合は事前連絡があると日程調整する。				

成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	学習した内容をその日のうちに「まとめる、ノート整理をする」時間を持ってほしい(1, 5時間)。それは次の時間の問題意識に繋がる。それを習慣化してほしいと思う。